

平成29年度 播磨町水道事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

本年度の給水業務状況は、給水装置数が前年比で212栓（1.3%）増の15,962栓、給水人口は21人（0.1%）減の34,548人となりました。

なお、年間有収水量は、4,074m³（0.1%）減の3,542,772m³となっており、給水装置数が増加したものの給水人口の減少と節水意識の向上に伴って減少傾向が続いています。

配水施設工事については、大中地区下水道工事に伴う配水管布設替工事、町道古宮土山線（第2工区）配水管布設替工事、野添城地区配水管布設工事（2工区）、水田川改修工事に伴う配水管仮設工事などを行いました。

浄水場関連施設では第2配水池耐震補強工事、第3浄水場高圧受変電設備機器取替工事、取水井浚渫清掃工事（3号・32号・33号取水井）、電磁流量計更新工事（表洗・ろ過）、第3浄水場1系フロキュレーター軸受メタル等取替工事、取水井水位計取替工事（10号・11号取水井）、第3浄水場ろ過器（6号・7号）ろ材入替工事、第3配水池連絡管更新工事などを行いました。

経営状況（税抜）については、総収益が620,098,367円に対して、総費用が543,887,527円で、当年度純利益76,210,840円を計上しました。

水道事業収益の主なものは、水道料金504,938,340円（81.4%）、長期前受金戻入[※注]87,543,235円（14.1%）で、収益全体の95.5%を占めています。

一方、水道事業費用の主なものは、減価償却費221,872,135円（40.8%）、支払利息及び企業債取扱諸費25,419,831円（4.7%）、職員給与費49,351,684円（9.1%）、県水受水費58,195,200円（10.7%）、動力費40,542,216円（7.5%）で費用全体の72.8%を占めています。

以上の結果、供給単価は142.53円、給水原価は127.87円になりました。

資本的収支（税込）については、総収入額が359,520,124円に対して、支出は建設改良費が250,107,098円、企業債償還金101,465,991円、投資300,009,630円で総支出額651,582,719円となりました。

なお、不足する292,062,595円については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額13,392,736円、減債積立金47,000,000円、建設改良積立金107,000,000円、過年度分損益勘定留保資金124,669,859円で補てんしました。

以上が平成29年度における経営並びに事業実施の概要であります。今後におきましても住民に安全で低廉な水を安定的に供給するため、水源の確保と効率的な事業運営に取り組み、公共の福祉の増進に努めます。

<注>

地方公営企業会計制度の見直しにより、平成26年度から償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金等については、「長期前受金」として負債（繰延収益）に計上した上で、減価償却見合い分を「長期前受金戻入」として順次収益化する。（地方公営企業法施行令第26条、地方公営企業法施行規則第21条）